

はじめに

府中市では、これまで生涯学習センターを生涯学習の主要な拠点の1つとして、幅広い世代に学習機会を提供してきたほか、様々な学習に関する情報の発信など、市民の生涯学習の振興が図られてきた。しかし、近年の急激な社会環境の変化は、市民の学習環境にも大きな影響を与えており、自治体がどのような役割を果たすべきかという点について、改めて検討するべき時期と考えられるのである。そして、生涯学習センターのあるべき姿あり方についても、その役割と機能について再検討が求められている。

第11期府中市生涯学習審議会では、「これからの生涯学習を支える『公共』の役割について」という諮問を受けて、今後20～30年後を見据えた生涯学習のあり方を検討してきた。2年任期の1年目に当たる令和5年度は、これからの生涯学習の拠点として求められる機能に関して、主に施設面についての提言を中間答申としてまとめた。2年目に当たる令和6年度は、主に生涯学習センターの事業や運営に関わる機能を明らかにすべく、学びとは何かについての意見交換を行った上で、府中市内にある生涯学習関連施設との連携を視野に入れながら、生涯学習センターに求められる役割及び活躍が期待される人材について整理を行い、来たるべき時代にふさわしい生涯学習センターのあるべき姿あり方についてビジョンをまとめてきた。

2年間にわたる議論を踏まえて、市民の学習環境の充実を図るため、将来にわたってどのような生涯学習の拠点が整備されるべきか、これからの生涯学習を支える「公共」の役割について、その指針となるべく要点をまとめたのが本答申である。

1. これからの社会環境

今後の「生涯学習の拠点」において、どのような役割や機能が求められるかを考えることに当たって、まずはその前提となる、「今後20～30年後に府中市はどんな社会環境になるだろうか」について検討した。ただし、コンサルティング・ファームが行うようなデータに基づく厳密な分析ではなく、あくまでも各委員が自らの経験や知識を基に考えたものであり、「こうなるだろう」という予想に加えて、「こうなることが望ましい」という期待も含まれている。

まず挙げられるのが、グローバル化と多文化共生である。日本社会の少子高齢化（2040年の日本の高齢化率（推計）は35.3％）に伴う労働力不足（2040年には1,000万人以上減少する。）を主要因として、日本で働く在住外国人が増加することが見込まれるとともに、「観光立国」によるインバウンド＝訪日外国人の増加も予想される。さらに、後述のデジタル社会（高度情報化社会）の発展に伴い、府中市に居ながらにして海外とつながっていく機会がこれまで以上に増え、府中市でも仕事や市民生活において国内外を問わない多文化共生社会へと変容し、人的交流も盛んになると考えられるよう。

そして、2点目は、多様化である。既に日本社会では、これまでマイノリティとして声を上げづらかった、障害者、女性、子ども、外国人、性的少数者、貧困者といった人たちの権利を守る動きが盛んになっているが、今後は経済的格差の拡大に伴い、苦しい状況に陥る人たちも含め、「生きづらさ」を抱える多様な人たちをどう包摂していけるかが問われるはずであるし、その答えを見つけていく必要がある。それは、社会が分断されず、多様な人たちが多様なままに共に生きられる社会を創るために必要不可欠なことである。

3点目のポイントは、更なるデジタル社会の進展である。60年程前に始まったAI^a研究はついに経済活動に利活用できる水準に達し、生成AIの発展は、ホワイトカラーを含む仕事の減少も引き起こすことが予想される。また、オンラインでのコミュニケーションが発達する中で、人と人のつながりのあり方も、ボーダレス化が一層進展するなど大きく変化していく可能性がある。

最後に、地域社会の変化として、高齢化と少子化が~~更さら~~に進む中で、空き家が増加するとともに、~~単身＝人~~世帯も増えて、地域コミュニティの力が更に減少することが予想される。府中市の高齢化率は、2040年までに31.4％に達すると予想されている。おおよそ10人に3人が高齢者となる予想である。また、~~単身＝人~~世帯は、2000年の36,666世帯から2

^a AI Artificial Intelligence の略で、人工知能や人工知能技術を指す。

〇二四年の約五七、九〇〇世帯へと大幅に増加し、今後もこの傾向は続くと予想される。この人口動態の変化は地域の生活慣習にも影響を及ぼし、ひいては地域が伝統的に担ってきた「共助」の機能が弱体化するだけでなく、世代を越えて受け継がれてきた様々な文化が衰退することにも結び付くだろう。よって、行政だけでなく、地域（市内各所の文化センターや地域包括支援センター、あるいはボランティアセンター等）や関係団体（自治会・町会含む。）の連携が不可欠となってくる。また他方、気候変動の影響が身近に感じられ、首都直下地震も30年以内に~~60~~70パーセントの確率で起こると予測されるなど、災害時の対応や日常の治安維持も含めて、地域コミュニティを、市民との共助と協働によって、どう再生・再興していくかも将来の大きな課題であると考えられる。

2. これからの生涯学習

次に、先に述べた社会環境の変化を踏まえて、「これからの生涯学習には何が求められるか」について検討した。

まず、「グローバル化」や「多様化」に対応するのが、多文化共生に関する学習や、多様な市民がそれぞれに参加できる学習活動の展開である。府中市には、府中市市民活動センター「ブラッツ」内に「多文化共生センターDIVE」（市民協働推進部所管）があるが、こうした組織と連携し協働することで、多文化共生に参画できる人材を育成することが望まれる。また、社会的分断を避けるためには、障害の有無、国籍、性別、年齢等にかかわらず、多様な人たちが共に学び、学びあえる場（場所や時間に制限されない仮想空間も含めた場）づくりも必要~~だろうとされよう~~。

次に、IT^b化・AI化の進展と社会への浸透に伴う変化に対応するために、市民が普段の生活の中で、こうした技術を使いこなすための学びや、先進のデジタル技術をうまく活用した学びの場づくりが考えられる。そのためには、学びの場へのアクセスの整備と利用法の高度化の整備も不可欠である。もちろん社会のIT化・AI化から取り残されがちな人々（高齢者等）への配慮も重要である。一方で、オンラインを通じてでは得られない、人と人が直接対面して学び、学び合う場の重要性がむしろ増すことも考えられ、リアルとバーチャルの適切なミックスを実現すること~~が~~求められよう。

さらに、社会全体の構造変化（各層での所得格差の拡大、~~若年・壮年層の高負担感~~と高齢者層の拡大と若年層の負担増大）の中で地域社会の課題に対応するためには、地域内の人と人とのつながりを醸成し（~~地域の再活性化~~）、市民の協働の力を強めるため（~~市民適応力の強化~~）、市民の自主的な学び・学び合いを促進するとともに、地域の多様なNPOや市民団体等が関われる

^b IT Information Technology の略で、情報技術を指す。

ようにすることも重要であろう。この点においては、媒介者~~や（あるいは仲介者）~~としての行政の役割が大いに期待される。~~そして、行政はまた、~~地域の将来を担う未来ある人達―若い世代の育成を進め、府中市でこれまで培われてきた様々な地域文化を盛り立てるとともに、新たな文化の創造にも留意すべきと考えられる。

3. 府中市の生涯学習が抱える課題

~~先述のこれからの課題に加えて、~~審議会では、現在の府中市の生涯学習が抱える課題についても議論した。そこで出された主な意見は次のとおりである。

- (1) 学習活動に集う市民の高齢化が進む中で、若い世代を含む多様な市民による新しい学習グループの形成に、生涯学習センターや地域の生涯学習の拠点である文化センター（公民館）があまり寄与できていない。また、生涯学習センター・文化センターの活動に、~~存在やその活動をより多くの、特に若い世代の市民を取り込むことも不十分である。に知ってもらふ広報がまだ足りていない。~~
- (2) デジタル化が市民生活の様々な場面で浸透している中で、生涯学習におけるデジタル化は遅れている。
- (3) 府中市が重視してきた「学び返し」は、様々な知見や技術を育んできた府中市民と、何かを新しく学びたい府中市民とが有機的につながることで実現可能となるが、府中市内にどのような学習資源（人や組織）があるのか、そうした資源とつながるにはどうしたらいいのか、人や組織間を橋渡しする機能が十分に構築されていない果たされていない。
- (4) 社会教育・生涯学習に関連する多様な施設（文化センター、図書館、博物館、美術館、劇場、市民活動センター、男女共同参画センター等）と生涯学習センターの連携が足りず、~~更なる連携が求められ、~~学校との協働もまだ強化する必要がある。特に「学び」と「学び返し」及び「実践」の循環を促すためには、市民活動センターとの連携が求められ、次世代を担う子どもたちに対する地域社会による教育力を促進するためには、教育施設や博物館との連携が重要である。
- (5) 主体的学習者としての市民を増やし、そのニーズに応えることが求められており、~~ために、~~既成の講座を受講して終わりではなく、より主体的に学びたいと思う人たちへのサポート体制（相談機能や生涯学習ファシリテーター、サポーターの活用）の一層の充実が求められる。また、~~人生100年時代、市民の知的能力や創造性を高めるとともに、同時に、人生100年時代、~~全世代にわたり健康増進の後押しを行うことが求められており、~~など、~~生涯にわたって学び続けることを支援し、様々なメディアを活用できる環境の整備も求められている。

4. これからの府中市における「生涯学習の拠点」の役割

「1. これからの社会環境」「2. これからの生涯学習」「3. 府中市の生涯学習が抱える課題」の視点を踏まえ、将来的な移転・施設再配置の計画を考慮すると、生涯学習の主要な拠点としての生涯学習センターとして今後担うべき役割は、自らが講座を提供するプロバイダーとしての役割よりも、市全体の「多様な学びのコミュニティ」を促進するための、「ハブ」及び「コンシェルジュ」としての役割であると考えられる。「多様な学びのコミュニティ」とは、市民が直面する多様な課題や生活上の必要性、あるいは各人の興味関心に応じて、自主的に学び、学び合い、人生を豊かにするとともに、地域社会を創っていく場ともなる、人々の多様な集まりのことである。「ハブ」と「コンシェルジュ」は、こうした多様な人々の多様な学びを側面支援し、促進するために必要な役割である。

(1) 多様な学びを促進するハブとして

「ハブ」は、元々「車輪の中心」を表す言葉だが、昨今では「ネットワークの結節点」という意味が持たれている。生涯学習における「ハブ」としての役割とは、まず、市内の多様な学習リソース（施設・組織・人材・活動等）を把握、データ化し、活用してもらうことを通じて、地域に根ざした学びのコミュニティの活性化を支援するものである。さらに、市内の多様な学習施設（文化センター、小・中学校、図書館、博物館、美術館、劇場、市民活動センター、男女共同参画センター等）とのネットワークの結節点となり、様々なリソースを結び付けて、世代を超えた多様な学びのコミュニティづくりにつなげることも求められる。

(2) 市民主体の学びを促進するコンシェルジュとして

「コンシェルジュ」とは元来、ホテル等において宿泊客の多様な要望に対応し、総合的にお世話をする役割の人を指している。生涯学習における「コンシェルジュ」とは、市民による主体的な学習ニーズに対応し、「学びたい人」「更に学びを深めたい人」「学び返しをしたい人」の相談を受け付け、必要なリソースにつなげていく役割である。この役割は、生涯学習センターの職員だけではなく、社会教育士や、生涯学習ファシリテーター、生涯学習ボランティア等、様々な形の人材やデジタル化によるAIによって担われることも可能であろう。

5. これからの府中市における「生涯学習の拠点」の機能

上記を踏まえて、今後の府中市における「生涯学習の拠点」として求められる機能は、次のとおりである。

(1) 多様な市民が気軽に訪れることができ、学習の楽しさを実感できる。

- バリアフリー、ジェンダーフリー、多言語化、開館時間の工夫、ＡＩの活用、アクセス、デジタルシームレス、施設内の明るさ、入りやすい雰囲気の出演出等
- (2) 多様な市民が自由に使える。
 - 多様な学習ニーズに対して、市民が多目的に使うことができる部屋
- (3) 学びたいと思った市民が気軽に集い、相談できる。
 - 気軽に集えるカフェ等の設置、相談室機能、施設内だけではなく施設外に向けた学びの情報の広報（電子看板など）の活用。ＳＮＳ等を通じた積極的な情報発信も必要
- (4) 学習サービスのデジタル化（ＤＸ^c化）を進め、先進的ＩＴ・ＡＩを活用できる。
 - Wi-Fi 環境の整備、パソコンや配信機器などの貸出し、「学習リソース」データベース化、講座のオンライン化／ハイブリッド化等
- (5) 府中市に根付く文化・芸術活動（音楽・演劇・ダンス・美術・工芸・映像等）を支援し、創造性を促進することができるような充実した施設とその利活用の促進
 - 対面での活動が欠かせない、工房や版画室などの創作系の活動や、小ホールやスタジオなどの音楽、舞台発表系の活動に対応できる諸室等
- (6) 環境への配慮や、災害時に対応できる
 - エコシステムの導入や避難所としての備品の用意等に加えて、次世代に良好な自然環境を残すため、自然との共生を図れるようなハード面でのＧＸ^d化

^c D X デジタル・トランスフォーメーション。Digital Transformation の略で、データと AI を始めとするデジタル技術を活用して業務プロセスを改善して仕組みの改革を進めることを指す。

^d G X グリーン・トランスフォーメーション。Green Transformation の略で、クリーンエネルギー中心の構造に転換していく、経済社会システム全体の改革への取組を指す。

おわりに（「公共の役割」について）

本審議会への諮問事項は、これからの生涯学習を支える「公共」の役割であった。本答申では、「これからの社会環境」「これからの生涯学習」を前提として、主に今後の施設再配置が予定される生涯学習センターの役割と機能について審議し、上述のような結論を出してきた。

では、生涯学習を支える「公共の役割」とは何であろうか。それを考えることに当たって重要なのは、生涯学習の多様な実践が持続していく環境を維持することである。府中市が標榜する「学び返し」を含め、多様な市民による主体的な学習活動が「学びのコミュニティ」となって展開されていくことが持続可能性の鍵となる。こうした多様な学びのコミュニティが市内それぞれの地域で定着することが、若い世代を含む市民が自分たちの地域に誇りと愛着を持つことにつながり、市の持続的な発展にもつながると考えたい。府中市は、市民の参加を得て、長期的な視野を持って調査・分析を行い、計画的かつ総合的に生涯学習事業を推進していく必要がある。

2024年11月に府中市がまとめた「府中市文化・スポーツ施設配置等適正化計画」において、生涯学習センターの今後について、体育機能を分離して新たな総合体育館に統合するとともに、学習機能を中心市街地に移転・整備する方向が示された。新たな生涯学習の拠点としての生涯学習センターを整備していく際には、社会の変化や新たな市民ニーズに対応する生涯学習事業はどのようなものかについて考察し提言した、本審議会の答申が活かされることを期待する。